


玉櫛遺跡

たまくし・1995.12.9

 (財)大阪府文化財調査研究センター



かまくら じだい こうはん

むろまち じだい ぜんはん

▲ 鎌倉時代後半から室町時代前半の集落

大きな溝で東西が区画されています。
溝より西側に建物や井戸があります。

平安時代後半から室町時代

たまくし いせき へいあん じだい こうはん
玉櫛遺跡では平安時代後半

今からおよそ700年から1000年前

ほったてばしらたてもの
掘立柱建物の跡や井戸など

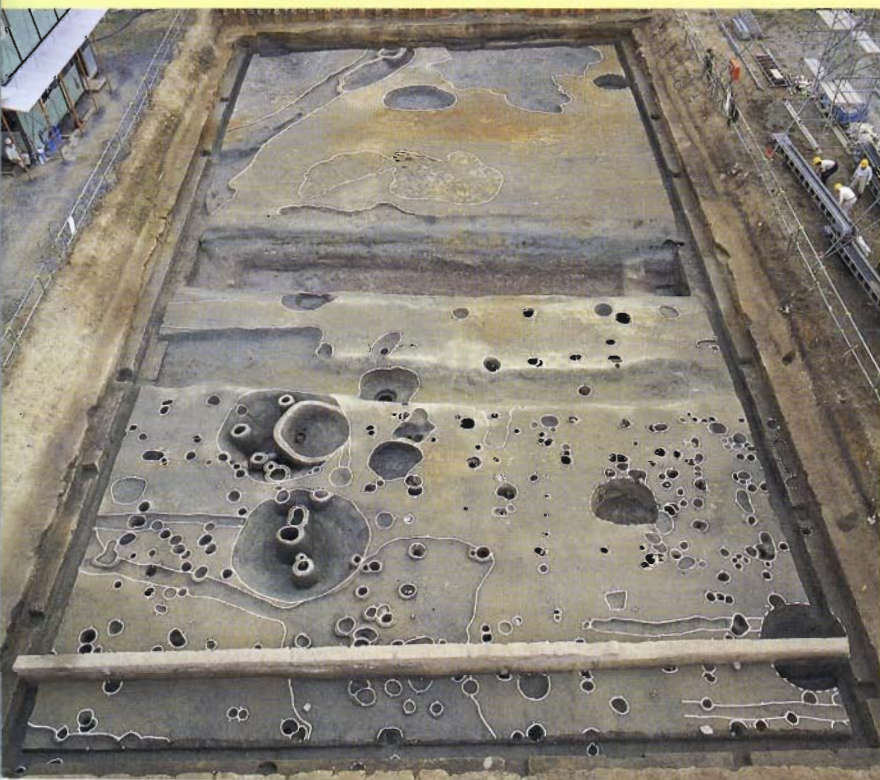
室町時代前半の土器溜まり ▶

大量の土器が一ヶ所からまとまって出土しました。中世の人々が日常どのような食器を使っていたかをうかがうことができます。



平安時代の集落 ▶

複数の井戸があり、柱穴の中には石を敷いたものも見られます。



鎌倉時代後半から室町時代の集落

溝にかこまれた中にいくつかの建物が並んでいたことがわかります。

むろまち じだい ぜんはん
から室町時代前半にかけての

しゅうらく
の集落のほか、すいでん
水田が発見されました。

掘立柱建物の復元 ▶

柱の穴が等間隔で並んでおり、
3間^{げん}×4間の建物であることが
わかります。



▲ 竹を四角く並べた井戸



▲ まげもの いとわく
曲物を井戸枠にした井戸

井戸はこれ以外に曲物を上下2段に重
ねたり、^{おけ}桶を使ったものもあります。



しつぎわん
漆器碗の出土状況 ▲

大溝から内外面ともに^{あかうるし}赤漆を
塗った漆器碗が出土しました。



▲ 井戸から出土した土器

平安時代前半 今からおよそ1200年前ごろ

集落が見つかった地層より下の層では、水田の跡を発見しました。
集落になる以前には耕作地^{こうさくち}として利用されていたことがわかります。



◀ 平安時代の水田から
出土した荷札木簡
「□□一石^{いっこく}」と読めます。



▲ 平安時代の水田の跡

まげもの
曲物・・・木を薄い板状にし、^{きざ}刻み目を入れて^{わんきょく}湾曲させ、底板をつ
けて桜の樹皮^{じゅひ}でとじて、^{おけ ひしゃく}桶や柄杓にしたもの。

にふだもっかん
荷札木簡・・・木で作った札^{ふだ}で荷物の内容を書き、^{こうのうぶつ}貢納物などの荷物に
付けた。